

# 四極大分

（発行責任者）高井 道晴  
 （題 字）桑原 豊  
 （発 行 所）  
 大分市金池町2-7-21  
 パークサイド大分駅ビル302号  
 四極大分支部  
 TEL (097) 538-2462  
 FAX (097) 529-6623



「保戸島回想」佐藤 睦典（院27回）

## 大分支部の 会員数

四極会の活動は、皆さんが納めてくださる会費によって支えられています。

大分支部には、会費納入形態によって、企業単位で納入する「職域企業会員」と、個人で納入する「個人会員」の二種類の会員がいます。

十九社に会員数 二〇四名の会員がいます

梅林建設㈱、江藤酸素㈱グループ、大分朝日放送㈱、大分県信用組合、大分交通㈱、大分日産自動車㈱、大分バス㈱、㈱大分放送、㈱オーイーシー、㈱古城、㈱佐伯建設、㈱大宣、鶴崎海陸運輸㈱、㈱テレビ大分、㈱トキハ、㈱トキハインダストリー、西日本電線㈱、㈱豊後企画集団

個人会員 三三九名  
 高専、経専卒業生 十二名  
 大学(上野丘卒業生)一六六名  
 大学(日野原卒業生)一六一名  
 会費会員には支部総会のご案内、大分支部が発行するこの「四極大分」や本部の会報「四極」をお送りするとともに、希望者にはホームページ

で会員名簿を閲覧するためのID、PWも発行します。お知り合いの同期生等に四極会活動に参加されていない方がおられましたら、是非、会費会員になるようお声掛けください。ご連絡いただきましたら直接、関係資料をお送りします。

職域企業にご案内する「職域交流会」は、現役で働く会員が横の繋がりを築くのに役立つています。また、例年百名近い経済学部の三年生が参加する「学生と先輩の交流会」は、学生が企業等で働く若い先輩に質問を投げかけて社会人の実態を知ることができると好評です。

大分支部とは別に、卒業生の多い企業等では職域支部ができています。現在七つの職域支部があつて、大分支部と連携しながら運営されています。

職域支部  
 大分県庁、大分市役所、大分銀行、豊和銀行、大分合同新聞社、大分大学、ジェイリース㈱



## 半世紀前



佐藤 辰夫  
 (大学22回)

来年(二〇二二年)、大分大学経済学部は創立百周年を迎える。そのちょうど半分の五十年はというと千九百七十二年で、私が大学三年生の時であり、アルバイトに部活にそして勉学に励んでいた頃である。そこでその前後を振り返ってみようと思う。

私が入学したのが千九百七十年、日野原である。三波春夫が千九百七十年のこんにちにはと歌った大阪万博の年である。その年は入学はしたものの、四月中はある程度の講義はあつたが確か五月六月中は学生運動の影響で休講が続いたと記憶している。大分大学でも学生運動が盛んになり、学生集会所が頻りに開かれ立て看板があちこちに立てられ、大学内でも相当の騒動が起きたものである。学生運動といえは、六十八年から六十九年にかけての東大安田講堂事件の影響で六十九年の

東京大学の入試が中止されるといふ事態になった。(一部過激派が七十二年のあさま山荘事件や赤軍派の一連の事件を引き起こしていくことになる。)

またこの頃は、六十年代に大流行したザ・タイガースをはじめとするグループサウンズが下火になりつつあり、フォークソングが頂点を迎え始めた頃でもある。学生にはメッセーじ性の強い曲が好まれたものである。いまでも我々の世代はカラオケに行くとこの当時の曲を結構歌っているものだ。

その他大きな出来事としては、七十一年のニクソンショックと七十三年のオイルショックがあげられる。どちらも日本をいや世界を一夜にして変えてしまった。事件、である。

七十一年のニクソンショックは、ちょうど私がカニ族スタイルで北海道を旅行していたときで、ニクソン大統領が発表した内容がどういふ意味を持つのかしかとはわかっていなかった。しかし、後に世界の金融と経済を大きく転換させ、我々自身にも大きな関わりがあることが理解でき、さらに数年後には自身で体験することになった。一ド

ル三百六十円の固定相場から変動相場に移った途端、急激な円高となり、二百五十円ぐらいでドルに交換して海外旅行に行き持ち帰ったドルを日本円に戻そうとしたときは二百二十円程度まで円高が進み、少額ではあるが相応の目減りをしたものである。

七十三年のオイルショックは、中東地域で勃発した紛争の影響で中東の産油国が原油価格を引き上げたのが原因となつた。こちらはトイレットペーパーや洗剤、砂糖などの生活必需品の物不足を生じさせ、国民生活に大いに支障をきたしたものである。物価も急激に上昇し、例えばガソリン価格も一リットルあたり五十円程度だったものが百円から百二十円程度までまたたく間に上がったと記憶している。

以上、五十年前の大学の状況や世の中の動きであるが、その後もバブルの崩壊やリーマンショックなどの大事件に遭遇することとなる。最後に、来年の百周年を、コロナ禍が収束し盛大にお祝いできることを祈念しております。

## 表紙写真の言葉

佐藤 睦典 (院27回)

「保戸島回想」  
 昨年二月、家族と四浦半島の河津桜を見た帰りに半島の最端、開元に立ち寄った。約100mの開元海峡を挟んだ先に保戸島が見える。保戸島は、津久見港から北東約14kmに位置し、周囲約4km、面積0.86km<sup>2</sup>、人口は約六百人だ。マグロの遠洋漁業の拠点としてにぎわったが、産業構造の変化とともに過疎化が進んでいる。保戸島は、私が海事関係の仕事をするきっかけとなった場所だ。十年前、島にある鮎延縄漁業船主組合から労務管理を依頼され、船員や漁船を調べるうちに海、港、船に興味を持った。それ以来、時間さえあればカメラを手に持ち、県内外の港を巡っている。今はコロナ禍で島へ渡ることができないが、取戻したらまたぜひ行ってみたい。



## 編集後記

幅広い年代の方々、それぞれ思いを込めて執筆していただき、本号をお届けできるようになりました。お忙しい中、皆様のご協力に対し、深く感謝申し上げます。このうち、定番の四極鼎談については、大学17回生の四人の方々による座談会となり、当時のバンカラな学生生活や寮生活、さらには、盛んだった学生運動など、どこか郷愁を誘う内容になっていきます。翻って、現在はどうでしょう。昨年からコロナ禍の状況が続き、感染拡大に伴い、大分支部の事業も次々と中止を余儀なくされています。「朝の来ない夜はない。」少しずつでも現状が好転し、来年の百周年が無事に迎えられることを願ってやみません。(事務局は水記)

## 編集委員

- 委員長 高井 道晴(大学21回)
- 委員 柴尾 敏夫(大学18回)
- 佐藤 浩一(大学24回)
- 小川 裕宣(大学33回)
- 住山 真美(大学47回)
- 高橋 秀武(大学21回)
- 是水 弘実(大学23回)

## 忘年会、新年会予約承り中!!

ホテルクドウ大分は、天然温泉のある、和室の多い、旅館風ホテルとして生まれ変わりました。宴会場、会議室もございます。宴会、会議、研修などに、ぜひご利用ください。



大分市金池町1丁目11-6  
 TEL 097-532-3981 FAX 097-536-6217

